

遠藤周作学会 会報

第 13 号

2018 年 11 月 20 日

発行 遠藤周作学会

代表 川島秀一

二〇一八年度遠藤周作学会・全国大会
総会報告
事務局より

◇第十三回二〇一八年度遠藤周作学会・全国大会開催

第十三回二〇一八年度遠藤周作学会・全国大会は、二

〇一八年九月十五日(土)に、上智大学にて開催された。

運営委員会が十一時半から行われた後、十三時から本学会代表、川島秀一氏による開会の辞が述べられた。次に、総会が行われ、以下プログラムのとおり五本の研究発表が行われた。続いて、上智大学の川村信三氏にご講演いただいた。大会進行役は昭和女子大学の笛木美佳氏及び、梅光学院大学の池田静香氏が担当した。

プログラム

【研究発表】

① 遠藤周作文学における「黒い人」

関東学院大学客員研究員 神谷 光信
司会 遠藤周作学会役員 兼子 盾夫

② 「黄色い人」論

——「編集された作品」という観点から——
大阪産業大学非常勤講師 北田 雄一
司会 京都外国語大学 長濱 拓磨

③ 遠藤周作「わたしが・棄てた・女」論

——〈痕跡〉のモチーフを中心に——
広島大学大学院 余 盼盼
司会 南山大学 金 承哲

④ 「聖母讃歌」にあらわれる

遠藤の信仰態度に関する一考察

⑤ キリスト教作家と戦中派作家の接続点
司会 金剛大學校 松橋 幸代
日本ペンクラブ 今井 真理

総合研究大学院大学 増田 斎
司会 九州共立大学 古浦 修子

【講演】

カトリック視点における遠藤『沈黙』の
提起する諸問題―神義論・教会論・救済論―

上智大学 川村 信三
司会 上智大学 片山はるひ

【総会】

総会は、議長に柴崎聰氏を選出して開かれた。まず、
二〇一七年度事業報告がなされた。内容は次のとおり。

◆ 第十一回二〇一七年度遠藤周作学会・全国大会
を清泉女学院大学にて開催。会員二十六名の参
加があった。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』第十一号発行。

◆ 第十一号は『沈黙』刊行五十年記念国際シン
ポジウム」の講演に基づく論稿一篇と、十篇の
論稿、二篇の書評、古浦修子による研究展望を
収録。

◆ 会員数は、二〇一八年九月時点で九十九名（一
〇〇名のうち一名が休会）。

◆ 遠藤周作事典編集委員会を二〇一七年五月、八
月、九月の三回開催した。

◆ 太原正裕氏により監査報告がなされ、二〇一七
年度の会計報告が承認された。

◆ 続いて、事務局より二〇一八年度事業計画が示さ
れた。内容は次のとおり。

◆ 役員体制について、現役員は継続する。

◆ これまでの「運営委員（会）」の名称を「役員
（会）」に変更したいとの提案があり、承認さ
れた。また、新役員としてマーク・ウイリアム

ズ氏と北田雄一氏が推薦され、承認された。

◆ 第十三回二〇一八年度遠藤周作学会・全国大会
を上智大学にて開催。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』次号（第十二号）は、
今回の発表者の原稿を掲載予定。募集要項等は
これまで通り。

◆ 二〇一九年度の大会は、芥川龍之介の長崎訪問
から一〇〇年に当たることから、国際芥川龍之
介学会と共催を企画中。

◆ 『遠藤周作事典』の進行状況について、本日の役員会にて鼎書房の小川淳氏よりご説明があった。九月末の原稿締切後は、提出原稿を編集委員がチェックし、ゲラ刷り、著者校正という流れとなる。現時点では、来年五月出版を目標としている。

最後に遠藤周作学会副代表の山根道公氏の閉会の辞をもって全国大会の日程を終了した。二十八名が懇親会会場の主婦会館プラザエフに移動し、発表者の挨拶と会員の近況報告が行われ、始終和やかな会となった。

■ 事務局より

▼第十三回遠藤周作学会・全国大会は、上智大学にて開催しました。参加者は会員三十六名に、聴講者九名が加わり、大変盛会でした。大会のためにご尽力くださいました、会場校の福田耕介氏、片山はるひ氏に改めて御礼申し上げます。

▼今回の大会の研究発表は、五名の発表者が初期作品や中間小説を取り上げ、それぞれ先行研究における遠藤像や作品評価に対して新たな視点や解釈を提示する刺激的な発表の場となりました。充実した内容が機関誌にまとめられますことを楽しみにしています。

また、川村信三氏による講演会では、キリシタン史とカトリック教会の歴史を踏まえた『沈黙』の解釈について語っていただきました。ユーモアあふれる語り口と確かな作品理解に支えられたお話は、大会の締めくくりにふさわしい実りあるものでした。

▼機関誌「遠藤周作研究」第十二号の投稿論文を募集します。投稿申し込みは、十一月末までに事務局へお願いいたします。機関誌の最後にある投稿規定をご覧ください、会員の方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。

▼次回の研究発表の申込みは来年四月末日締切りです。二月に改めて募集のお知らせをいたします。

▼次回の大会は、先述のとおり長崎にて行われます。国際芥川龍之介学会との共催という初めての試みとなりますが、芥川と遠藤はともに西洋との距離感の問題に對峙し、切支丹物の作品を多く生み出した作家であり、両学会が長崎で共催されることは、大変意義深いことです。多くの学会員が集い、充実した研究発表がなされ、盛会となりますことを期待します。

現時点での日程は以下の通りです。

八月二十二日（木） 夜：役員会議

八月二十三日（金）

国際芥川龍之介学会と遠藤周作学会（別会場）で研究発表）

※遠藤学会は午前中、文学館及び出津文化村のフ
イールドワーク。午後、研究発表。

八月二十四日（日）

国際芥川龍之介学会・遠藤周作学会共同シンポジ
ウム

「芥川龍之介と遠藤周作における《長崎》

——キリシタン文学の国際的意義」（仮）

シンポジウム後、合同レセプション

八月二十五日（日）

フイールドワーク

（国際芥川龍之介学会企画 芥川関係、長崎市
内）

※長崎大会では、大会実行委員会が宿泊先の斡旋を行
いません。宿泊をご希望の方は、各自でご手配をお
願いたします。

※詳細は、二月末にお送りする発表者募集のメール
（「案内」）をご覧ください。

▼最後に学会員の方々にご協力をお願いがあります。機

関誌の「遠藤周作参考文献目録及び研究展望」は、次号
より北田雄一氏が担当されますので、遠藤周作に関する
会員の方々の論文はもちろん、入手できた参考文献につ
いての情報を、北田氏に直接お知らせください（E-mail:
kitada.y0116@gmail.com）。また、これまでの参考文献
目録について遺漏のある場合も、ご連絡をお願いします。

（文責 会報担当 古浦修子）

遠藤周作学会 事務局

〒154-8533

東京都世田谷区太子堂1-7-57 昭和女子大学

日本語日本文学科 笛木美佳研究室内

TEL: 03(3411)5019

E-mail: f_mika@swu.ac.jp